



鯖江市東陽中学校

学校賞 受賞

JICA国際協力エッセイコンテスト2021にご応募頂き、団体賞を受賞された学校のご担当者様にアンケートを実施しました。エッセイコンテストを学習活動に利用したいけれど、どうしたらいいかわからない、そんな先生方のご参考になりましたら幸いです。

Q ご応募のきっかけを教えてください。

本校の3年生は総合的な学習の時間で1年生のときからSDGsの学習をしています。その学習の中で、JICAの教材である「共につくる私たちの未来」を使っていたところ、生徒から「実際に世界規模で行われているSDGsの話を知りたい」という要望ができました。そこで講演を依頼し、本校に来てくださったのがJICA福井デスクの佐藤山斗さんです。佐藤さんはご自身の経験をSDGsと関連付けて、様々なお話をしてくださり、それまでSDGsを他人ごととして捉えていた生徒たちに「自分たちでもできることがあるのではないか」と思わせてくださいました。そんな佐藤さんがエッセイコンテストを勧めてください、SDGsを自分ごととして捉え始めていた生徒たちの思い、考えを具現化するいい機会だと思い、コンテストに応募させていただきました。

Q エッセイコンテストへご応募いただいた後、継続して取り組まれたことなどはありますか・

昨年の応募から1年が経ち、その間に生徒は近隣の大学の学生たちとのワークショップや他学年とのポスターセッション、SDGsの学校ごと化計画、ふくいSDGsパートナーへの登録、福井県内のSDGsに積極的に取り組む企業とのワークショップ、県内企業と協力して行った地区内の環境調査、海浜自然センターでのビーチコーミング、ユニクロの服のチカラプロジェクトへの参加など、様々な取り組みの中でSDGsをより自分ごととして捉えるようになりました。そんな生徒が、今何を思っているか、昨年どう変わったか、学校での学習と自分の生活をどのように結びつけているのか知りたいと思い、今年度もコンテストに応募することになりました。



Q どの様に実施されましたか？

国語科の授業でエッセイについて学習し、総合的な学習の時間で書いています。コンテストに応募する前に、タブレット端末を用いて自宅でみんなのエッセイを読み合う時間も設けています。

Q 国際理解教育を題材とした授業や取り組みはありますか。

SDGsを軸に、国際理解についても考えています。例えば、鯖江SDGs推進センターのスタッフをお呼びし、ジェンダー平等の話の中で他国のジェンダー平等の状況を聞いたり、ユニクロの服のチカラプロジェクトに参加するにあたり、難民問題の現状を学習したりしています。

Q JICAエッセイコンテストを含めた国際理解教育の取り組みの中で、生徒さんの学びや気づきの変化などはありましたか。

「世界」や「国際」と聞くと、どうしても遠くのことと感じてしまっていますが、SDGsと関連付けて学習することで、全世界が協力していることを知り、自分たちにもできることがあると気づき始めています。これからのグローバル社会を生きる生徒たちが、世界の現状を自分ごととして捉えようとしていることに意味があると感じています。また、生徒は日本が他国と比べて恵まれていると感じる反面、他国と比べて理解が遅れていることもあると感じています。

Q その他、質問や感想がありましたらご記入頂きますと幸いです。（自由記述）

SDGsも国際理解教育についても、机上で学習することはもちろん大事ですが、やはり実際に活動している方の話を聞いたり、体験したりすることの方が、生徒の感じたり、学び取ったりすることが多いと思います。また、多くの機関や大人の話を聞くと、生徒は様々な考え方に触れることができます。これからも、生徒が様々なことに触れ、自分で考え、自分で発信していく学習をすすめていきたいと思っています。

